

～いわて林業アカデミーの研修生を受入れ（平成30年度2回目）～

昨年4月に開校した「いわて林業アカデミー」では、1年の研修期間で林業に関する知識や技術を体系的に習得し、将来的に林業事業体の経営の中核となり得る現場技術者を養成するための研修を行っています。

今年度の第2期研修生18名は、林業の現場の専門家で構成する「いわて林業アカデミーサポートチーム」や東北森林管理局、岩手大学、森林総合研究所、林業事業体、指導林家等の協力により、座学や現場実習に日々奮闘しています。

国有林関係では、盛岡森林管理署管内において5月28日の「鳥獣害対策」に続き、10月10日(水)、10月11日(木)の2日間の日程で、当署職員が講師となり国有林の業務内容の紹介や事業フィールドを活用した研修を行いました。

1日目は、署会議室において安永署長より「東北の国有林について」と題し、国有林の施策や岩手県内での取組等について紹介しました。



安永署長の講義



18名の第2期研修生

午後は雫石町の網張国有林において、岩手山の火山防災対策としての治山ダムの施工状況と保安林制度について説明を行いました。



治山ダムの概要説明



保安林制度についての説明

その後、滝沢市の一本木山国有林へ移動し、ハーベスタやフェラバンチャ・ザウルスロボなどの高性能林業機械による伐採から集造材、カラマツコンテナ苗の植栽まで一貫作業システムによる一連の作業について見学し、低コスト林業の取組状況について理解を深めていただきました。



ハーベスタによる伐倒状況



ザウルスロボによる集材状況

2日目は、岩手町の四日市山国有林において、民国連携の取組として「岩手町横断松くい虫防除帯森林整備推進協定」に基づいた森林共同施業団地内での樹種転換に向けた取組状況や、今年度新たに設定した試験地において「2条、3条植栽による下刈の省力と郷土樹種（広葉樹）を活用した多様な森づくり」の概要について説明しました。



民国連携の取組紹介



2条、3条植栽の説明

その後、滝沢市の影添国有林に移動し、昨年度東北森林管理局で開催された森林・林業技術交流発表会において当署で発表した「平蔵沢ヒバ人工林における天然更新による施業方法について」、樹齢約180年のヒバ展示林で説明を行いました。雪害により空間ができて、陽があたることによってヒバ稚樹の繁茂が旺盛になっている状況や、立木価格ではスギの約30倍の単価となることに驚いた様子で、「ヒバ大径木をチェーンソーで伐倒してみたい」という研修生もいました。



ヒバ展示林の紹介



ヒバ稚樹の生育状況説明

研修後のふりかえりでは、「森林の3割を占めている国有林では、健全な森づくりのため保護林を設定したり、地球温暖化対策に貢献する取組を行っていることがわかった」、「座学で学習した後に、現場で実際に低コスト林業の取組などを見学し、森林管理署で取り組んでいることを理解できた」などの感想がありました。

盛岡森林管理署では、今後も講師の派遣やフィールドの提供等を通じて国有林の取組を紹介しながら、地域の技術者育成に向けて協力してまいります。